

科 目 名
人間と教育Ⅱ Human and Education Ⅱ

1年 後期 2単位 選択

八 田 豊

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), (2)

建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
	a	建築構造コース		

【概 要】

なぜ教育（制度）史を学ぶのかという問いに対して、「歴史は現代への問いである」という見方が示される。日本だけでなく広く世界にいたるまで、過去から現代までの教育（制度）史や教育制度を学ぶことで、単なる知識の集積を目指すのではなく、人間と教育の在り方に関する興味をかきたて、時代や社会と人間との関係に対する問題意識（歴史認識）を高めることは重要である。

本講座では、世界及び日本の教育制度史を学ぶことで歴史認識を深め、現代を見つめる問題意識を高める。なお、前半は世界の教育制度史、後半は日本の教育制度史の2部構成で解説を進めていく。一見、両者は独立したもののようにだが、決してそうではなく、根底のところでは結びついている。自国の教育の諸課題を、より広い視野のもとで再認識・再確認することが重要である。

なお、日本の教育制度については、教育制度としての教育基本法、学校制度としての学校教育法があるが、そのサポートをするための教育特例法や地方公務員法等の法規を踏まえながら学校制度を考えていく。

【到達度目標】

- (1) 学校教育に関する法令をもとに、現代に至る教育制度の歩みをたどるとともに、事例研究を取り入れ、その実際の・具体的な対応策を考えることで実践的な教育観・指導力を身につける。
- (2) 各国の教育制度を学ぶことで、わが国の教育をグローバルな視点から考える姿勢を身に付け、今、求められている学校の在り方、教員として必要な資質と教育への情熱、状況に応じた意識改革の大切さ等を認識させる。

【授業計画】

- ① イギリス及びフランスの公教育制度の変遷
- ② ドイツの公教育制度の成立と統一学校運動
- ③ アメリカにおける公教育制度成立過程、及び20世紀初頭の新教育運動の展開
- ④ フィンランドの教育制度
- ⑤ 江戸時代の教育（藩校と郷学、寺子屋のカリキュラム）
- ⑥ 明治期の教育制度（学制、教員養成制度の成立とその定着）
- ⑦ 「学校令」及び「教育勅語」の理念とその影響
- ⑧ 大正デモクラシー期の教育運動
- ⑨ 中等教育の拡充と発展、及び女子教育の普及と展開
- ⑩ 臨時教育審議会答申に基づく教育改革（「教育の個性化」とその影響）
- ⑪ 学校教育法からみる児童生徒への教育期待論
- ⑫ 戦後の教育の歩みと教育基本法の改正
- ⑬ 教育公務員特例法からみる教師論（教員の資質、教師としての研修と教養）
- ⑭ 21世紀に期待される教師像
- ⑮ 総 括

【授業方法】

- 1) 適宜、資料を配付して歴史的背景と現代的意義を考察し、実際の事例をもとに「考える授業」を展開する。基本は説明による講義となるが、必要に応じて討議する授業を創っていく。
- 2) 授業の後半（15分程度）に、人（教員）としての生き方についての事例紹介を適宜行う。

【評価方法】

- 1) 授業中のミニレポート
- 2) 定期試験

【教 材】

特に指定しない（必要に応じて参考書を紹介）